

平成24年度日本小児外科学会
第2回定例理事会議事録

日 時：平成 24 年 6 月 27 日（水） 11：00～16：00

会 場：日本外科学会 会議室

出席者：田口智章（理事長）、仁尾正記（副理事長）、上野 滋（理事・会長）、岩中 督（理事・副会長）濱田吉則、葦澤融司、前田貢作、北川博昭、窪田正幸、松藤 凡（以上理事）、窪田昭男、橋本 俊、土岐 彰（以上監事）、小室広昭（庶務委員長）、菱木知郎（庶務副委員長）、吉澤穰治（財務会計委員長）、渡井 有（財務会計副委員長）家入里志、杉山正彦（以上庶務委員）、堀口裕輔（事務局）

議 事：

1. 第2回定例理事会の議事録署名人は、前田貢作 理事、松藤 凡 理事とした。
2. 平成23年度第8回定例理事会および平成24年度第1回定例理事会議事録につき、全会一致にて承認された。

3. 報告事項

田口理事長より以下の報告があり、了承された。

1) 理事長報告（田口理事長）

- (1) 神奈川県医師会からの寄贈本「神奈川医学会雑誌 Vol. 39 No. 1」を受領した。
- (2) 外科関連専門医制度委員会からの通信文「第 49 回総会議事録（案）の一部訂正」につき、仁尾副理事長より資料に基づき説明され、了承された。
- (3) 日本医学放射線学会からの通信文「代表者交代のお知らせ」を受領した。
- (4) 日本外科学会からの通信文「外科専門医認定試験および予備試験日程のお知らせとお願い」を受領した。
- (5) 日本製薬工業協会からの冊子「てきすとぶっく製薬産業 2012&製薬協ニューズレター2012No. 149」を受領した。
- (6) 日本外科学会からの寄贈本「SURGERY TODAY Vol. 42No. 6」を受領した。
- (7) 日本医学会からの寄贈本「Japan Medical Association Journal Vol. 55-No. 2」を受領した。
- (8) 日本医師会からの寄贈本「第 1 回日本医療小説大賞決定発表掲載」を受領した。
- (9) 最高裁判所からの通信文「医事関係訴訟鑑定人選出のお礼とお願い」を受領した。
- (10) NCD からの通信文&冊子「平成 23 年度総括研究報告書および総合研究報告書」を受領した。
- (11) 日本肝胆膵外科学会からの通信文「代表者交代のお知らせ」を受領した。
- (12) 日本麻酔科学会からの寄贈本「Journal of Anesthesia Vol. 26-3」を受領した。
- (13) 外科関連専門医制度委員会からの資料「専門医の在り方に関する第 8 回検討会」につき、田口理事長より資料に基づき、説明があり、了承された。
- (14) 日本医学会からの通信文「生体内圧力の計量単位について」、田口理事長より審議結果の説明があり、反対とすることが確認された。

(15) 専門医制評価認定機構社員総会につき、専門医制度黒田庶務委員長が理事長代理として出席し、田口理事長より、資料に基づき、その報告があり、了承された。

(16) 小児外科関係新任教授について、田口理事長より以下3名の紹介があった。

久留米大学病院医療安全 田中芳明教授

岡山大学病院小児外科 野田卓夫教授

香川大学医学部小児外科 下野隆一教授

(17) 第3回小児がん医療・支援のあり方に関する検討会について、田口理事長より、小児がん拠点病院の認定要件の説明があり、最終的には全国で約10か所程度となることが報告され、了承された。

- ・日本小児外科学会認定施設であり、かつ日本小児血液・がん学会専門医研修施設
- ・骨髓移植推進財団の移植認定病院または日本さい帯血バンクネットワークの移植医療機関の登録施設
- ・小児血液腫瘍10例/年以上
- ・小児固形腫瘍10例/年以上

4 審議事項

1) 第50回学術集会について（岩中会長）

岩中会長より、資料を基に、プログラム内容の説明、およびサテライトセミナーの説明があり、承認された。

なお、市民公開講座についてはこれまでの開催報告等をもとに審議の結果、今後開催を休止することとなり、第50回学術集会より適用することが提案され、承認されたため、市民公開講座の開催はなしとする。

	午前	午後	夜
5月29日	理事会	評議員会 記念式典	記念祝賀会
5月30日	記念座談会 シンポジウムなど	理事長講演 会長講演 招待講演 一般演題（ポスター含む）	
5月31日	教育講演 シンポジウムなど International Session 一般演題	特別講演 教育講演 シンポジウムなど International Session 一般演題（ポスター含む） 倫理セミナー	会員懇親会
6月1日	教育講演 シンポジウムなど International Session 一般演題	特別講演 シンポジウムなど 一般演題（ポスター含む）	内視鏡セミナー 卒後教育セミナー
6月2日	卒後教育セミナー	卒後教育セミナー	

また、北川理事より、WOFAPSのロゴマークを学術集会ホームページに掲示する提案があり、承認され、第50回学術集会事務局長小室先生にて対応することとなった。

2) 第51回学術集会について（濱田副会長）

濱田副会長より、資料を基に、日程修正案および会場の説明があり、了承された。

日程

学術集会	平成 26 年 5 月 8 日（木）から 10 日（土）
理事会・評議員会など	平成 26 年 5 月 7 日（水）
卒後教育セミナー	平成 26 年 5 月 10 日（土）、11 日（日）
市民公開講座	平成26年5月10日（土）
会場	大阪国際会議場（大阪市北区中之島）

3) 第28回秋季シンポジウムについて（田口理事長）

田口理事長より、資料を基に、準備状況が報告され、承認された。

なお、秋季シンポジウム開催時に併催される各種委員会の要望については、日本小児外科学会事務局にて取りまとめ、堀本会長へ依頼することとなった。

4) 庶務委員会（小室庶務委員長）

小室庶務委員長より会員動向について、以下の報告があり、承認された。

平成 24 年 5 月末現在の会員数は、評議員を除く正会員 1,827 名（うち海外 4 名）、評議員 289 名、名誉会員 55 名（うち海外 9 名）、特別会員 63 名（うち海外 1 名）の合計 2,234 名である。

5) 財務会計委員会（吉澤財務会計委員長）

吉澤委員長より以下の通り報告・提案され、承認された。

・秋季シンポジウム開催中の日本小児外科学会関連の会議会場費について、学会本体が負担できる金額の上限を設定する案が提案され、審議の結果、理事会および各種委員会の開催経費は 20 万円を上限とすることが承認された。

・機関誌電子化に関し、資料を基に、以下 4 通りの方法が提案され、審議の結果、③を採用することが承認され、電子化開始は 49 巻 1 号からとすることとなった。

ただし、電子化に伴う投稿規定の改訂ならびに電子化された機関誌のホームページ掲載方法および発刊のアナウンス方法については、機関紙委員会にて継続審議とした。

また、別刷については、無料配布 30 部をやめ、すべて有料とする。

なお、購読用販売としての紙媒体については、オンデマンド印刷にて、ある程度（200 部ほど）印刷することで対応する。

※紙媒体での機関誌を要望する会員については、定期購読（年間購読金額の目安は 10000 円）を案内する。

- ①すべての号（通常号と抄録号）を電子化する。
- ②すべての号を電子化する。紙媒体の抄録号を希望者に販売する。
- ③通常号は電子化する。抄録号は紙媒体として全員に発送する。
- ④通常号は電子化して紙媒体通常号を販売する。抄録号は紙媒体として全員に発送する。

6) 各種委員会報告および審議事項

(1) 機関誌委員会報告

北川担当理事より、資料に基づき、以下の通り報告され、承認された。

- ・ 学術集会中に開催された第3回機関誌委員会議事録が資料に基づき、報告された。
- ・ 次号機関誌 48巻4号については、便色カードマニュアルを同封することもあり、会員の手元に機関誌が届くまでに少し遅れている。
- ・ 利益相反規定に関し、ホームページの掲載が分かりにくい場所にあるため、分かりやすい場所へ変更していただきたい。
- ・ 特別会員鈴木宏志先生、名誉会員矢野博道先生がご逝去にあたり、それぞれ楠 正人先生および八木 實先生へ追悼文の依頼をしている。

(2) 国際・広報委員会

田口理事長より資料に基づき、以下の通り報告され、承認された。

- ・ 第50回日本小児外科学会総会で途上国支援をテーマとした国際セッションを企画したい旨、提案され、岩中会長よりセッション枠を準備いただけることとなったため、セッション内容については国際・広報委員会にて継続新事項とした。
- ・ 学会ホームページについて、レイアウトを全面的に変更する具体的な案をもとに費用の相見積を確認していくことが提案され、承認された。

(3) 保険診療委員会

窪田担当理事より以下の通り報告、提案があり、承認された。

- ・ 平成24年5月14日保険診療委員会開催（第49回日本小児外科学会学術集会開催中）

1. 外保連手術試案に新規術式として申請する術式を検討

新規術式候補	備考
漏斗胸バー抜去術	
先天性食道狭窄症根治手術（胸腔鏡下）	
先天性食道閉鎖症根治手術（胸腔鏡下）	
リンパ管腫摘出術（長径5cm未満）（鏡視下）	
リンパ管腫摘出術（長径5cm以上）（鏡視下）	
ヘルニア手術（腹直筋離開）・臍帯ヘルニア・腹壁破裂（サイロ造設）	
胃捻転症手術（腹腔鏡下）	

胃瘻造設術（腹腔鏡下）	
先天性胆道閉鎖症手術（腹腔鏡下）	
総胆管拡張症手術（腹腔鏡下）	
腸重積症整復術（腹腔鏡下）	
尿膜管摘出術（腹腔鏡下）	日本泌尿器科学会から新規術式として提出済み
卵巣嚢腫内容穿刺吸引（腹腔鏡下）	
経皮的卵巣嚢腫内容穿刺吸引	

2. 外保連手術試案第8版のうち日本小児外科学会が主学会の術式および新規術式申請予定の術式について医療材料調査（50件の調査）が必要であり、その調査方法を検討。

平成24年11月までに保険診療委員の施設で調査を行い、症例数が50件集まらない術式については他の小児外科認定施設に依頼することとした。

また個々の術式における医療材料調査は、私立医科大学と国立大学、国公立系の病院とで全く異なることが判明。国立大学、国公立系の病院では、個々の手術において実際に使われた医療材料の記載がない病院が多く、過去の手術においてさかのぼって調査できないことがわかった。このため今後の医療材料の調査を行うための調査用紙を早急に作成し、これを使用することとした。

- ・「DPC導入の影響評価に係る調査」における「留意すべきICDコード」についての要望の結果報告

平成24年度「DPC導入の影響評価に係る調査」に関する資料が平成24年3月30日に発表され、要望した急性虫垂炎、鼠径ヘルニア、大腿ヘルニアに関連する計7個のICDコードは「留意すべきICDコード」からはずされた。また、要望書の部位不明の意味を厚生労働省が十分に理解していただけた結果、他領域における同様の部位不明コードも「留意すべきICDコード」からほとんどはずしていただいた。

（4）教育委員会

松藤担当理事より以下の通り報告、提案があり、承認された。

- ・卒後教育セミナーアンケート調査結果（参加者115名）
- ・内視鏡手術セミナーアンケート調査結果（参加者73名）
- ・今後内視鏡手術セミナー開催については、卒後教育セミナープログラムの中に組み込む形としていくが、内視鏡手術セミナーのみ参加する場合の受講料徴収方法については、オンライン事前登録受講料5,000円（参加費2,000円、テキスト代3,000円）とし、オンライン登録終了後の参加費は3,000円（クレジット決済無し、現地集金とする）とする案が提案され、承認された。なお、内視鏡手術セミナーの会場費については、学会負担とすることが確認された。

(5) 悪性腫瘍委員会報告

前田担当理事より以下の通り報告され、承認された。

- ・2010年次登録・追跡調査が無事終了し学会誌2012年度第1号に掲載されたこと、登録施設が6施設増加し98施設となり登録症例数が500を超えたことが報告された。
- ・2011年次登録・追跡調査(2001-2005登録症例)の集計、分析については10月15日を回収目標とする。追跡調査については、地区センター毎に回収、入力を行い、2012年8月末までに委員長宛に送付し、その後各追跡担当者に9月中旬までに送付して解析を開始することとした。追跡調査データの解析内容に関しては、2013年3月末ぐらいまでに最終型にすることが申し合わされた。
- ・米田光宏前委員長から、神経芽腫の登録データを用いた「神経芽腫マスキリーニング休止後の臨床像の変化」の発表に関して2012年日本小児血液・がん学会への演題登録について申請があり、電子会議にて承認後、理事会にて検討の結果承認した。

(6) 学術・先進医療検討委員会報告

濱田担当理事より以下の通り報告され、承認された。

- ・第48回演題集をホームページへ掲載し、現在第49回分を入力中である。
- ・会員ページに『手術動画配信』を作成し第47回および第48回の19作品を公開しており、第49回については発表された21題の中から優秀ビデオ10題を選出した。
- ・科研費採択結果の集計について、平成23年度の集計から心臓血管外科領域を対象外にしたため、これまでと調査対象が異なっているため、これまでの結果報告と区別してホームページに掲載した。過去のデータについては学会雑誌が電子ジャーナル化する時に、これまでの傾向を学会雑誌に報告した後、消去あるいは別ページでの掲載を検討することになった。
- ・ホームページの『学術ガイドラインリンク集』が古いため刷新を検討している。
- ・新たな情報収集として、腸回転異常術後の再軸捻転やイレウスについての調査を佐藤委員が中心となり方法を検討し、NCDに依頼することとなった。
- ・「手術動画配信」普及ため、会員ページからID、パスワードの必要なく、直接閲覧できるよう希望し、理事会で承認され10万円の予算が計上されていたが、事務局からの提案「会員ページにある『手術動画配信』ページをトップページに移すことで、二重にログインする必要がなく、費用もかからない」案を委員会で審議の上、了承した。
- ・会員対象のアンケート調査依頼の審査および認可について
 - 1、群馬県立小児医療センター山田佳之先生から
「小児好酸球性食道炎の患者全体像の把握と診断・治療指針の確立に関する研究」(平成22年度厚生労働省難治性疾患克服研究事業)のアンケート結果のホームページの掲載依頼があり、学術先進医療検討委員会で審議し、6月4日付で承認、ホームページへ掲載された。

2、三重大学消化管・小児外科内田恵一先生から「手術部位感染予防策に関するアンケート調査報告」のホームページ掲載依頼があり、審議の結果、6月1日付けで承認した。一部修正の可能性ありホームページへの掲載依頼は未。

(7) 小児救急検討委員会報告

松藤担当理事より、以下の通り報告、提案され、承認された。

- ・小児外科医のための小児救急セミナーを第49回学術集会時(5月13日)に開催し、参加者97名およびアンケート調査結果が資料に基づいて、報告された。
- ・次回の小児外科医のための小児救急セミナーについては、第28回秋季シンポジウム開催時を検討しており、集中治療医や麻酔科医が参加討論できるものとしたいことが提案され、承認された。開催時間帯については、その他セッションと重ならないように配慮する必要があることが確認された。

なお、当該セミナーは継続して行うものではなく、援助金がある間に限り、開催を検討することが確認された。

- ・日本腹部救急医学会から急性胃腸炎のガイドライン作成の協力依頼があり、審議の結果、以下3点より、今回は協力を辞退することが承認された。

- 1、日本小児外科学会と日本小児救急医学会とで、既に腸重積に関するガイドラインを作成している。
- 2、参加学会の協賛金が50-100万円であり、かつ年間5-6回の会議があるため、負担が少なくない。
- 3、小児の急性腹症が全体の急性腹症に占める割合がそれほど多くない。

(8) データベース委員会

前田担当理事より、以下の通り報告され、承認された。

- ・2011年度NCD登録症例に関して日本小児外科学会として作成依頼をするアニュアルレポートの項目についての検討を行い、理事会での検討結果をふまえて、NCDへ依頼した。
- ・2013年のNCD術式は、外保連試案第8版との整合性を検証したうえで使う旨の説明があった。
- ・NCDにつき、海外のaudit実施状況を参考とし今年のauditを予定しているのは、外科共通項目(13項目)で、参加診療科(約5,000)から選ぶとのこと。
- ・小児外科専門医認定および施設認定について、NCDを利用していく上で、本年の専門医制度合宿委員会にてNCD登録データと年次報告書との検証作業を予定している。

(9) 利益相反委員会

菫澤担当理事より、以下の通り報告され、承認された。

- ・委員構成

担当理事：倫理・安全管理委員会の担当理事

委員長：倫理・安全管理委員会委員長

委員：倫理・安全管理委員会から一名
機関誌委員会から委員長とその他一名
学術・先進医療検討委員会から委員長とその他一名

・業務内容

- 1、会員は臨床研究成果を学術集会等で発表する場合、当該研究実施に関わる利益相反状態を適切に開示する義務を負う。本指針に反する事態が生じた場合には利益相反委員会にて審議し理事会に上申する。
- 2、理事会は役員（理事長、理事、監事）が日本小児外科学会のすべての事業を遂行する上で深刻な利益相反状態が生じた場合、或いは利益相反の自己申告が不適切と認められた場合利益相反委員会に諮問し利益相反委員会は答申を行う。
- 3、会長は日本小児外科学会で臨床研究成果が発表される場合、その実施が本指針に沿ったものであることを検証し、本指針に反する演題については発表を差し止めることができる。これらの対処については利益相反委員会で審議し理事会に答申する。
- 4、各委員会の委員長・委員はそれぞれが関与する学会事業に関してその実施が本指針に沿ったものであることを検証し本指針に反する事態が生じた場合には速やかに事態の改善策を検討する。この対処については利益相反委員会で審議し理事会に答申する。
- 5、被措置者は日本小児外科学会に対し、不服申し立てをすることができる。日本小児外科学会がこれを受理したときは利益相反委員会において誠実に再審理を行い、理事会の協議を経てその結果を被措置者に通知する。
- 6、本指針は社会的影響や産学連携に関する法令の改変などから個々の事例によって一部に変更が必要となることが予想される。日本小児外科学会利益相反委員会は理事会の決議を経て本指針を改正することができる。

・役員関係各位へ利益相反に関する調査を開始する予定である。

(10) ワークライフバランス検討委員会

窪田担当理事より、以下の通り報告され、承認された。

- ・女性のキャリア継続のみならず、小児外科医全体のワークライフバランスの適正化を目指すものであり、「ワークライフバランス検討委員会」とすることを決定した。
- ・日本小児外科学会会員のワークライフバランスの実態、各施設でのキャリア継続支援の現状を把握するためにアンケート調査を行うこととし、アンケート案について提案され、加筆・修正の期限を2012年7月中として理事会にて確認し、次回理事会にて正式なアンケート書式を提示することとした。

7) 選挙管理委員会報告（小室委員長）

小室委員長より、以下の通り報告され、承認された。

- ・選挙管理委員会委員を、田口理事長の指名により、藤野明浩評議員（慶應義塾大学）

とする。

- ・次号機関誌に掲載する選挙公示案につき、資料に基づいて報告され、承認された。
- ・オンライン選挙機能については、7月中に最終チェックを行い、オンライン選挙投票方法の案内については、11月頃に郵送予定である。

8) 次回定例理事会の日程の確認について

次回理事会は平成24年9月26日（水）11：00～16：00日本外科学会会議室にて開催することが確認された。

理事長 _____

理 事 _____

理 事 _____